

貧しい人を救いたい

母国で病院開設

世界最貧国のひとつ、バングラデシュで、日本に留学経験を持つバングラデシュ人医師三人が来月、貧しい人たちのための病院を開設する。日本で学んだ医療技術を自国の発展につなげようと、今年春の帰国前から準備を進め「アジア医師連絡協議会」(AMDA、事務局・岡山市)の支援も得て実現にこぎつけた。週に一度は無料診療日を設定する予定。人口の大半が一生に一度も医者にかからないといわれるこの国で「この病院を成功させて、だれでも治療を受けられるためのステップにしたい」と三人は張り切っている。

(社会部・三野 雅弘)
三人は、AMDAバングラデシュ代表のサルダール・ナイームさん(三)ことムア

元日本留学の医師3人

日本からも援助

来月から 無料診療日も

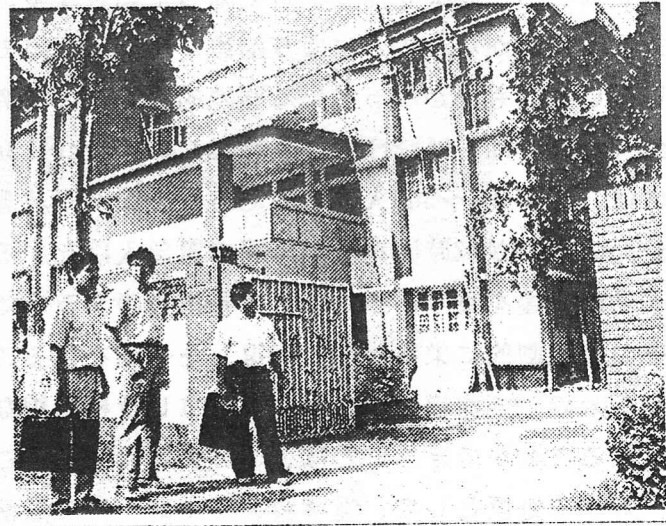
ザン・ファイサルさん(三)、ジョナイド・シャフィックさん(三)。

三人は約五年前に、最新の医療技術を学ぶために来
学生は、大半が医師としての活動の場を求めて欧米に流出する。しかし、ナイームさんらは「学んだ医療技術を自国の発展のために生かしたい」と博士課程を修了した今年春に帰国、それぞれ病院に勤めながら、貧しい人たちのための病院の開設準備を続けていた。

それぞれ東京大、九州大、琉球大で消化器系外科、麻酔科を専攻してきた。バングラデシュの海外留

病院では、ナイームさん

らが診療、がんなどの早期発見のための定期検診なども行う。毎週金曜日は無料診療日とし、貧しい人たちにも利用してもらおう。ベッドは三十床。急患に対応するため、二十四時間体制で交代で病院に詰める。開院までに医師十五人などのス



「日本バングラデシュ友好病院」のスタートを心待ちにするナイームさん(左)ら。バングラデシュ・ダッカで

ナイームさんは、「この国の六五〇の人は一生に一度も医者にかからないというデータもある。早期治療のためにも、お金が無い人でも気軽に來れる病院を口指したい」と意欲を見せている。